

浮気町ならびに住吉神社のいわれ

出典 昭和53年3月31日発行「守山の火まつり」

4 おこない

1月8日の祭礼を「おこない」といい、この夜12本の松明を神前で燃やし、その神火のまわりを「へえよ へえよ」(御悩平癒)と口々に唱えながら踊りまわる。伝説によると上御門天皇(1195~1231)御不例の析、夢枕に一人の老翁が現われ、帝の御悩は、我が地に棲む竜の災いで、我れこれを退治して御悩を除くべしと告げた。帝は御身は何処の神なるがな、と問い給うに、我は淡海の国、浮気の神なりという。後旬日(+日)を出ずして帝の御悩平癒し給う。



松明結い

爾来(シライ…それ以来)、氏子はこれを記念して竜体の頭部に似た松明を神前に供え「御悩平癒」を唱へ合う行事が起ったという。

なお、隣町の勝部でも同じ日に火まつりを行うが、この地の松明は蛇の胴体を模している。さらに大津市瀬田の方でも松明行事があって、そこでは蛇の尾部を模していたというが、この方は伝承だけで不明である。



御弓式